

IPv6について

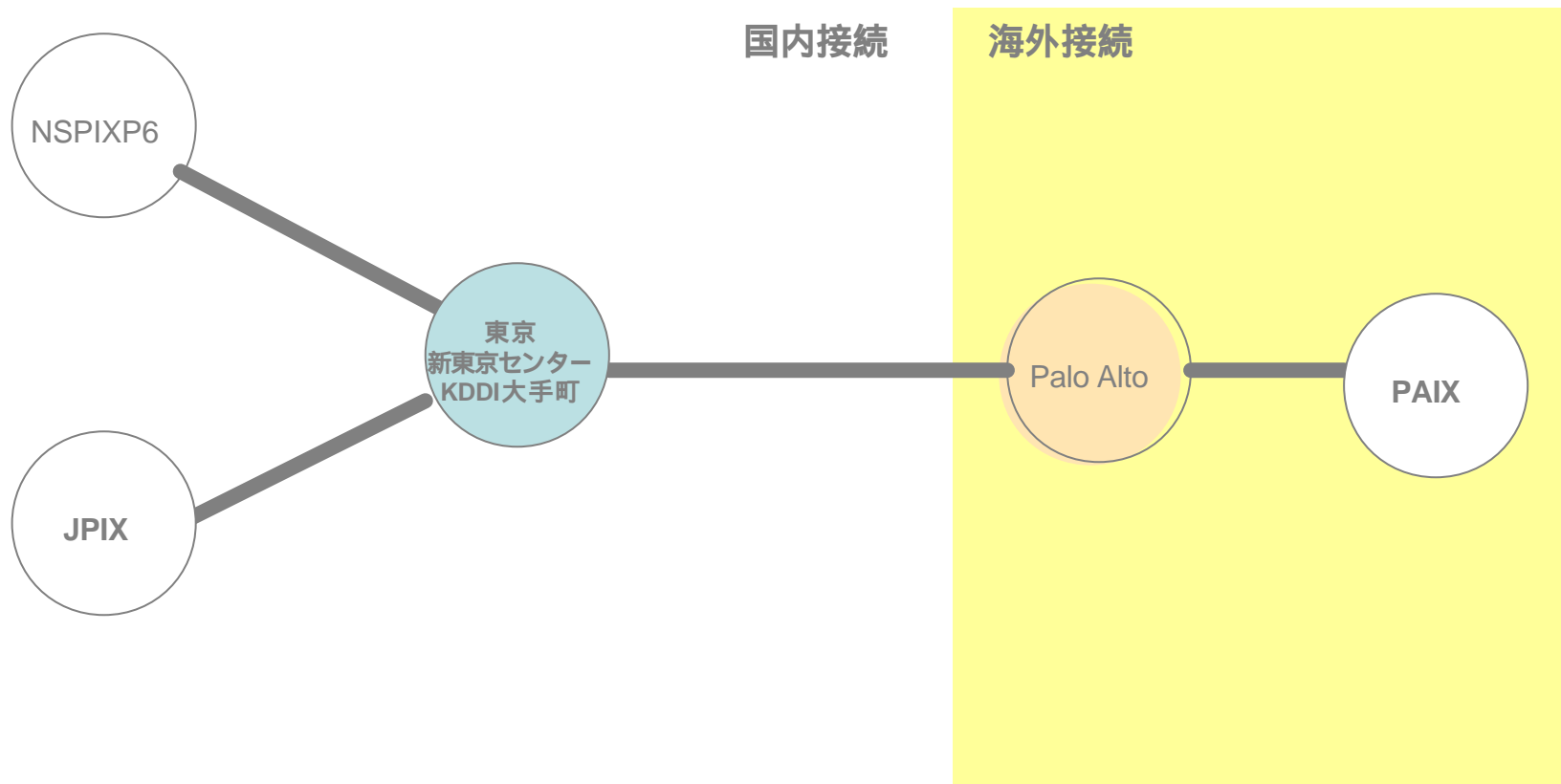
Dec. 7, 2005

日本テレコム株式会社
専務執行役 CTQ 研究所長

弓削 哲也

For Your Networking Universe

- ・国内ではNSPIXP6、JPIXと接続
- ・海外ではPAIX (USA)において接続
- ・ネットワークはI-NOC (IP Network Operation Center :東京)にて24時間365日での保守・運用を実施

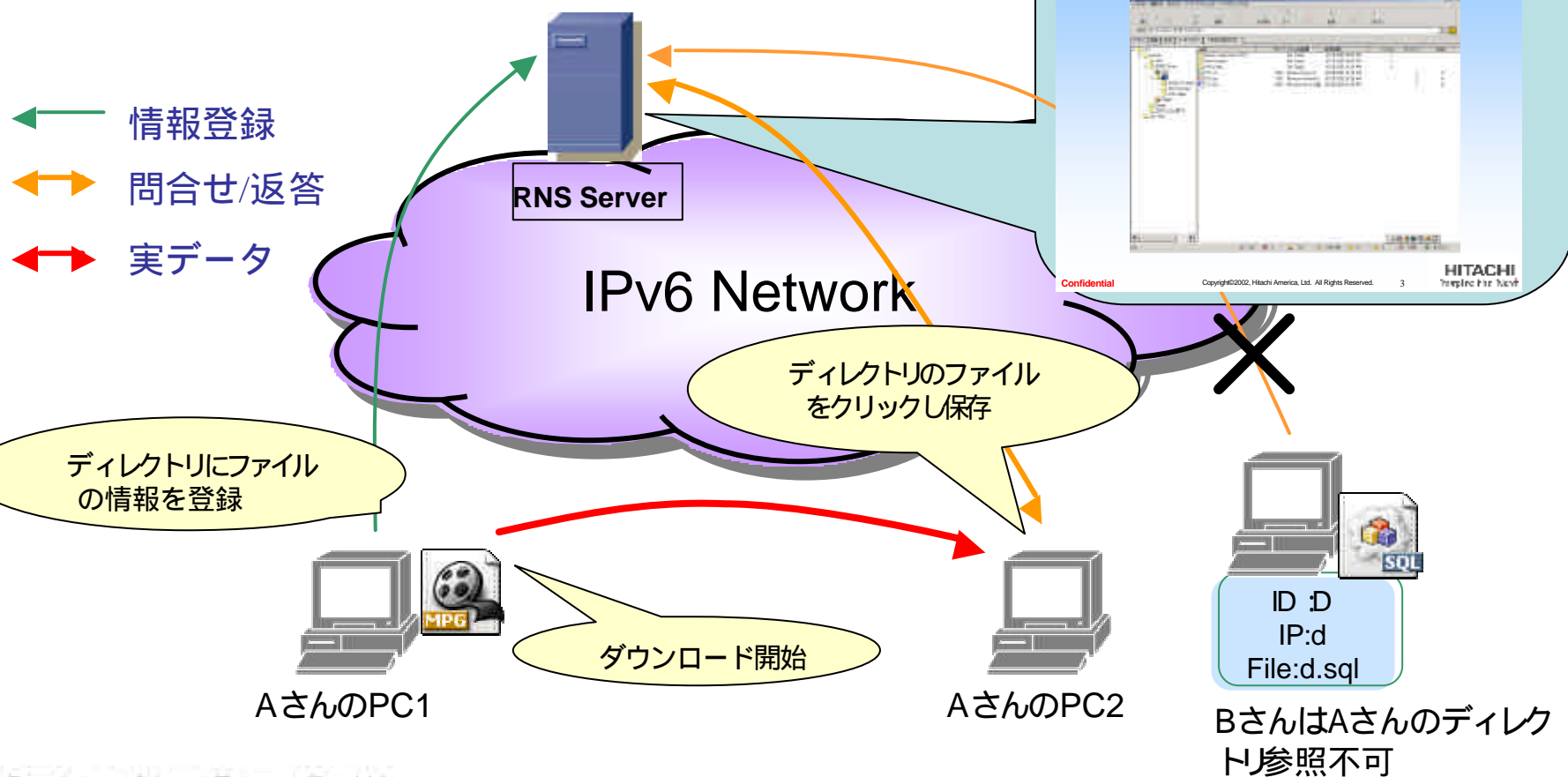


IPv6上で動作するP2P型アプリケーションソフトウェア・サービス

・メッセンジャー機能及び個人ファイルVPN機能が利用可

・実験期間・・・2003/5～2004/9

<個人ファイルVPNのイメージ>



◆ 今後のICT

今まで通信とは無縁だった物や場所で利用が進む。

少子化を補うための業務効率化

顧客ニーズに即した商品開発

IT化の促進・可視化

・IoTメンテナンス

・棚卸・検品の自動化

・ネット家電

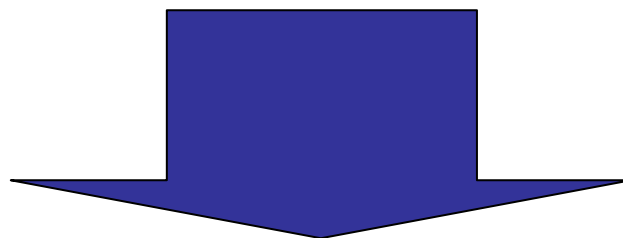
・センシングによる環境情報収集

・履歴蓄積による行動把握・分析

・地上波デジタルTV

NON-PCデバイスの導入促進

- ◆ 新しいデバイス・エリアの追加によるv6化を追う
 - ☒ ネット家電、ビル・マンション・ホテルのオートメーション化
 - ☒ メンテナンスのリモート制御
 - ☒ その他、NON-PCデバイス(センサーなど)の收容



回線サービスはこれを收容するに相応しいアドレス設計・ルーティング・QoSなどの機能を提供する

実装

PCのOSはok 組み込みOSのv6対応に期待
V6に対応したセキュリティ、ロードランサー製品（パフォーマンスなど）
はまだ一部

ルール 運用ポリシーの整備

アドレス配布（ISP、ユーザーへの割り当て）とおかわり
アクセス元の把握（DNSの逆引き）

強い動機

導入したい、しなければならぬという動機が分かりにくい
（政府主導の導入、アドレス枯渇、運用・ルーティング設計がしやすい、
明確なビジネスメリット等）

取り組むべき方向性

自ら取り組むこと、お願いしたい事

新たなビジネスメリット
の創出



NON-PC分野のv6化
OP :無線環境などの整備
ベンダー :組み込み系OSの
v6対応

ビジネスメリットが出る
環境の整備



既存サービス分野のv6化
OP :コンシューマー向け含む
接続サービスの拡充
ベンダー :セキュリティ製品など
のv6化対応



ユーザー・ISP・
端末ベンダー
にとって最も使
いやすいアドレ
スの配布、管
理について包
括的に検討し
て行きたい。

END